



東恩納組

東恩納 厚 会長

2017年を振り返って。
昨年は「南風」の欄大変にお世話になりました。「南風」をきっかけに多くの方と知り合い、大変な年でしたが、私は1年前に医師を辞め、建設業に専念しています。6年前に会社を任された時には、医学や経営の勉強が主でしたが、現在は毎日建築の勉強をしています。多少は建築が分かるようになりました。
昨年の建設業界は、好況の追い風に集り各社の業績は良好だったと思われまふ。しかし、各社人材不足に悩まされ、眼前の仕事も請け負えない状況です。この状態が2、3年続き、その先は業界が減少し厳しい風を覚悟するに違いないと予想しています。この時期を機

然と通すか、企業体質を強化するかで、企業の将来が変わると思います。重点的に取り組むことは、

企業の本質は継続であり、そのために企業は利益や人材を必要とするのです。企業は有機的組織であり、社会の公器

最良の建築提供へ精進

です。人や社会に必要とされ、役立つものでなければ存続理由を失います。二日中建築業に身を置き、現場を巡回することで経営の本質が身についていると思います。私たちが人や社会に必要とされるには、何をなすべきかが明確に理解でき

ました。それは簡単なことであり、そして大変な努力を要します。私たちがなすべきことは弊社の建築理念にある「人を守り・心地よく・美しい建築物を創る」ことです。私たちは施主さんに最高の建築物を提供するために日夜精進

せず、新築の需要が高いです。新しいものを導くのも大切ですが、古い建物やノベリ・心・地・美・美しい建築物を創ることを目指します。私たちは施主さんに最高の建築物を提供するために日夜精進

進めなければなりません。さらに理中・物件を対象にした不動産事業「リタシ」の進捗は、

創造がますます進んでいます。さらに理解してもらうよう発信していく必要があります。建物やサービスを求めるお客は、人々の体も建物も同じに感じます。例えば、鉄筋は骨、コンクリートは筋肉、電気配

線は神経です。今までは、医学として働いてきましたが、建築も人々の意味で共通点があります。

社会貢献について。

企業の大きな役割の一つは社会への貢献です。2年前から沖縄工業高校建築科の生徒さんへの給付型奨学金を行っています。当初は1人でしたが、昨年度は2人し、本年度からは、毎年3人を見たいと思います。その先も体たうじて大きな貢献ができればと考えています。

新年に思うことは。

新年に抱負を言う聞かれますが、一日一生の覚悟で生きていられるには不要な思われまふ。どこまでも一日を懸命に生き切ることを考えています。



株式会社 東恩納組

HIGASHIONNA.CO

～人につくし 自然とともに 社会のために～